

# 議 事 録

会議名 第1回国見版 CI（コーポレート・アイデンティティ）策定検討委員会  
日 時 令和4年12月22日（木）15：30～16：40  
出席者 委員：9名（齊藤委員長、持地委員、佐藤委員、三栗野委員、鈴木委員、齋藤委員、  
阿部委員、近久委員、上神田委員）欠席1名（原田委員）  
町 長：町長、（事務局）企画調整課長、木村係長、舟山主査  
傍聴：2名

## 概 要（各委員質疑応答・意見抜粋）

- 1 開会
- 2 町長あいさつ
- 3 委員長選出 1番 齊藤睦委員を委員長に選出

### 4 協議事項

（1）国見版 CI（コーポレート・アイデンティティ）について

#### 質疑応答（●：委員、○：町）

●CIは、一般的にマインドアイデンティティ、ビジュアルアイデンティティ、ビヘイビアアイデンティティの3つを決める必要があると思うが、国見版 CIはそうはならないという認識か。この委員会で意見を聞いたうえでスローガンを決めるのは、飛躍している印象である。

○委員ご指摘のとおり、実際に CI を作成すると3つのアイデンティティを検討するため、電話帳と同じくらいの厚さの資料になる。内容をどこまで含めるかは、委員の皆さんやオブザーバーの意見を聞きながら決めていきたいと考えている。

●CI が企業理念であるならば、町長などの上層部や職員が策定の議論に関わる必要があるのではないか。

○ご指摘のとおり。町長の意見も取り入れるが、本委員会の中で出た意見を町長に提出したい。

役場職員については、第6次総合計画を検討する組織があるので、その中で議論し、内部の了解を得ていきたいと考えている。

## (2) 意見交換

意見 (●：委員、○：町)

●今日拝見したのは、歴史と阿津賀志山、くだものの3つであり、これらはそれなりに分かりやすく、その町の特徴を表しているが、それが町の人や全国にどのように響いて伝えられるのかをこの委員会で考えていくのが役割だと考えている。CIは、人間でいうところの魂がどういうモノかを探ることである。それを探ることは大変だが、委員の皆さんの意見から読み解いていきたい。

●今国見で農業をしていると思うことは、川内地区などの野菜がすごい、光明寺の米がすごく美味しくて、全国に発送する米の種を作る種子組合もある。伝統のある町という印象なので、これをもっと広めていけるようにできたらいいと思う。

●国見町のイメージを3つ持っている。1つはプラスイメージとして、町長との距離感が近いことが挙げられる。もう一つは、新規就農にオススメな点である。ビジネス訓練所では国の補助金を得ながら就農ができるため、助かっている。福島県内でも誇るのだと思うので、どんどんPRしてほしい。最後にマイナス面だが、少子化の影響で中学校の部活動で野球部とサッカー部がないのは衝撃的だった。

●国見町に移住する前の印象は、なぜ「町なのか」。町村合併の時に伊達市になれたはずなのに、それを選択しなかったのはなぜか。そこにCIはあったのかが気になる。

●国見町は、何を作っても作物はできる場所だということ。逆に特色がないというイメージがある。国道4号線や高速道路のインターチェンジもあり、条件は整っているが欲がない。作物は何でも育つし、気候にも恵まれている土地だ。

●数年前と比較して人は少なくなっている印象である。さらに、コロナの影響でこの先どうなっていくのかという不安は漠然と抱いている。我々30代ができることは何か探して頑張っていきたい。

●国見町は、くだものはもちろん、野菜もおいしい。国見といたら農作物、歴史といったワードがついて回っていたが、新しい国見らしさを見つけないかと思っている。

●国見はカメラに収まるロケーションはたくさんあるが、売りになるロケーションがない。一つの大きなロケーションを持っている場所は魅力的。そういった場所に負けないようにするにはどうしたらいいか。農業に関しては、これ以上生産者を減らさないことが重要。

●CIを考えるときに、国見町にある桃や柿、阿津賀志山、防塁など目に見えるものの、その奥に秘められた町民の想いや背景を作っていくことを考えてほしい。養蚕農家から桃農家へ大転換した町民のアイデンティティがあると思うので、一気に変わる変革のアイデンティティがあるはず。そういったものを今回のCIに取りこめられればいいと思う。